

新年度がスタートして、早くも1か月経ちました。はじめのうちは、新しい環境に慣れず不安な表情を浮かべる子どもの姿が見られましたが、気持ちが切り替わるように園庭や運動場で遊んだり、片島児童公園に行ったりすることで、今では笑顔も増えてきました。子どもたちが「今日もキッドワールドこども園にいきたい」と思い、笑顔で登園できるよう一人一人と関わっていきたいと思います。

また、5月には、保護者面談が始まります。家庭での姿や園での姿など伝え合い、連携をしっかりとって、安心して子育て楽しむことのできる園を目指していきたいと思います。

行事予定

日	曜日	園児に関すること
8	金	身体計測(5歳児)
11	月	身体計測(3歳児、4歳児)
12	火	身体計測(2歳児めろん組)
13	水	身体計測(2歳児ぶどう組) 4歳児バス遠足(上野丘子どものもり公園) 5歳児バス遠足(七瀬川自然公園) 弁当日(0、1、2、4、5歳児)
14	木	身体計測(1歳児さくらんぼA組)
15	金	身体計測(1歳児さくらんぼB組)
18	月	避難訓練(不審者対応)
20	水	3歳児バス遠足(横尾あおぞら公園) 弁当日(3歳児)
21	水	健康診断、身体計測(0歳児)
26	火	避難訓練
27	水	誕生会

ツバメについて

春になると、園のまわりでもツバメの姿が見られるようになります。ツバメは人の出入りがある場所を選び、子育てをします。

ヒナが生まれると、親鳥は何度もエサを運びながら大切に育てます。やがてヒナは成長し、巣立ちの時を迎えます。

ツバメの子育ての様子は、子どもたちにとって命の大切さや自然の営みを感じる貴重な機会となります。園でもあたたかく見守っていききたいと思います。

一方で、巣の下にはフンが落ちることがあります。園では状況に応じて受け新聞紙を設置するなど、衛生面に配慮しながら対応してまいります。ご家庭でも、近くを通る際には足元にお気をつけいただき、温かく見守っていただけますと幸いです。



お知らせ・お願い

- ※ 今月よりゆうちょ銀行の自動払込がはじまります。4月の保育料、給食費、延長料金等の支払い日は、5月12日(火)となります。支払い金額の内訳書は後日お渡します。
- ※ 5月はバス遠足のため、年齢によって弁当日が変わります。忘れないようお持ちください。
13日(水)0・1・2・4・5歳児がお弁当日 ※3歳児は給食の提供となります。
20日(水)3歳児がお弁当日 ※0・1・2・4・5歳児は給食の提供となります。
- ※ お子さんの登園用バックにつけるキーホルダーは1点のみにしてください。(お守り等も1点とみなします。)
- ※ 降園時、お子さんが園庭や運動場で遊びたい気持ちはとてもわかりますが、駐車場に限りがありますので、スムーズな降園をお願いいたします。

子どもが望む大人の世界⑦ ～17の子どもの願い～

キッドワールドこども園 総合園長 牧野 桂一

前回までに紹介しきれなかった③番目にあたる「子どものあるがままの姿を受け入れる」以下の項目について、今回も同じように順次紹介していきたいと思います。

最初には、③番目にあたる「子どものあるがままの姿を受け入れる」から始めていきたいと思います。「子どものあるがままの姿を受け入れる」ということは、子どもの性格や感じ方、得意不得意、言動などの背景にある子どもの気持ちを否定しないで、「そう感じているんだね」「あなたはあなたでいいんだよ」と一人一人の子どもの生きている土台で認め、子どもの「あるがまま、そのまま」を大事に受け止めるということなのです。

ここで考えておかなければならない問題として、「子どものあるがままの姿を受け入れる」ということが、「子どもたちのすることなすことを全て許す」という意味ではなく、「子どもの人間としての存在」と「子どもの行動」を分けて考えるということです。子どもの人間としての存在はきちんと認めるけれども、行いの間違っていることはそのままでは認められないという姿勢が大切になります。ですから、子どもたちは「自分にダメなところがあっても間違いをしても基本的には人間として愛されている」ということが実感でき、「自分はここにいいのだ」「自分は人間として認められているのだ」という感覚をもてるように育てることが重要になります。そうすると、子どもたちは失敗しても立ち直ることができ、新しいことにも挑戦することができるようになります。このように自分の感情を頭ごなしに否定されずに聞いてもらえる経験が増えいくと、子どもの中には自尊感情と自己肯定感が育ち、自分の「怒っている」「悲しい」「悔しい」「嬉しい」等の気持ちを安心して表現し、自分の気持ちを言葉にすることができるようになります。そして「困ったときはお父さんやお母さんに話しても大丈夫」という信頼感が積み上がり、将来子どもが人間関係でトラブルになった時に「自分の気持ちを伝えて解決する力」も育ってきます。そして、また、思春期など成長の難しい時期になった時も、このような信頼が育っていると子どもは心を閉ざしてしまうことなく可能性が低くなります。

子どもと生活していると、時には子どもの行動で保護者にとってとても困るような場面が起こることがあります。そのようなときには、子どもの行動と気持ちを分けて考え、その子の行動は認められなくても「子どもの気持ち自体」は受け止めることができるようになり、親子の信頼関係をより一層高めていくことができるようになります。

例えば、着替えをしないでゲームばかりしているような場合にも、「ゲームをしたい気持ちはわかるよ。でも今は着替えをしないと間に合わなくなるよね。どうしようか、お母さんと一緒に着替えをしようか。」というように子どもの気持ちを認めた上で、行動を誘い「ルールや社会的に必要なことは大人がきちんと伝える」ようにすることで、子どもは「ダメ出しされている。叱られている。否定されている」というのではなく「一緒に考えてもらっている。認めて貰っている」と感じるようになり保護者の言葉を受け入れ信頼関係を深めていけるようになります。

子どものあるがままの姿を受け入れるということは、時には保護者にとってとても難しいこともあります。保護者としては、忙しかったり、イライラすることがあったりして「子どもを受け入れられていない」と感じる自分に責任を感じて自分を責めることもあると思いますが、そのような時、自分を責めすぎないことも大切なこと

です。保護者も一人の人間ですから、「今日は余裕がないな」「今日はイライラしているな」と自分に気づけるだけでも、その心は、子どもにはどこかで通じているところがあるものです。「子どものあらゆることを完璧に受け入れる保護者」になるというのではなく、「親としての心が揺れながらも、また迷いながらも少しずつ子どもの気持ちを理解し、寄り添っている保護者」であれば、それだけで子どもにとって安心できる存在になります。ですから「子どものあるがままの姿を受け入れることが大切」ということを知り理解するということは、子どもとの信頼関係を作っていく上で大切な一歩になるのです。

一方、「子どものあるがままの姿を受け入れる」ことで保護者自身も子育てが少し楽になれます。「もっと○○○○できるはず」「他の子みたいにしてほしい」と常に「保護者の描く理想の姿」と比べていると、保護者の方も疲れてしまいます。「この子は今、こういうペースなんだな」と一度子どものあるがままの姿を受け入れることで、①イライラが少し和らぐ ②子どもの小さな成長に気づきやすくなるというようなメリットもあります。

ここで、「子どものあるがままの姿を受け入れる」ためには、具体的にどうすればよいかということを考えてみたいと思います。

最初は、「あるがままの子どもの気持ちを言葉にして代弁する」ということです。その例としては、次のような関わり方があります。

① 途中で遊びを中断しなければならない子どもに対して「もっと遊びたかったんだね、楽しかったもんね」と気持ちを受け止めてあげると子どもは気持ちを切り替えやすくなります。

② 遊びで負けて悔しがっている子どもに対して「負けて悔しかったんだね、本気で頑張っていたよね」と共感してあげると、負けたことを受け入れて、前向きに、またお母さんと一緒に頑張ろうという元気が出てきます。このように、まず子どもの気持ちを受け止めてから、「でも時間になったから帰ろうね」「叩くことはやめようね」と行動のルールや社会のきまりを伝えると、子どもも肯定的に受け止めて、保護者の言うことを納得しやすくなります。

次に大切なこととして、子どもたちを比べずに「一人一人、あるがまま(その子基準)」で見ることがあります。一人一人の子どもを周りの子どもたちや兄弟姉妹と比べる代わりに、「昨日より少しできるようになったこと」「この子なりに頑張っていること」に目を向けると、ありのままの子どもを受け入れ易くなります。この機会にこのようなことを考えながら子どもとの関わりを考え直していただけると子育てがこれまで以上に楽しいものになると思います。



今回もまた、紙面の都合で紹介しようと思っていた項目を全て紹介することはできませんでしたので、次回には、⑭明るくてほほ笑みの多い保護者になる ⑮ユーモアに富んだ保護者になる ⑯子どもの名前をいっぱい呼んであげる ⑰人として美しい親になるなどについて紹介していきたいと思います。